

【認知症ケア語録①】

「あなた（職員）の前にいる認知症の方の姿は、あなた（職員）を見ている認知症の方の反応の姿である。」

職員が認知症の方を取り巻く環境として存在し、認知症の方がよろしくない反応をされている場合は、そういった反応を生み出す環境としての職員が存在している可能性がある、ということを常に意識しなければならない、ということ。

【認知症ケア語録②】

「あなた（職員）と認知症の方のやりとりを見ている、もう一人のあなた（職員）を存在させられるように」

やりとりを俯瞰している自分をもつことが大切です。そのためにまず、**a.**認知症の方が不安定になられた時の言葉、それに対して自分が発した言葉を記憶できるようにすること、**b.**記録に残すこと、**c.**それを他者から評価を受けること、を続けていくと、もう一人の自分が徐々に現れてきますよ。

【認知症ケア語録③】

「認知症の方が不安定になられた時の言葉、それに対して自分が発した言葉を記憶できるようにする。更に、その時の自分の感情とそれが認知症の方に与えた影響も推し量れるとよい。」

【認知症ケア語録④】

「認知症の方の不安な言動を介護記録に残す場合、事実となぜだったのかの推測を切り分けて記入すること」

介護記録の書き方については、例えばこんな本がありますよ。「早引き 介護記録の書き方&文例ハンドブック」を紹介します。

【認知症ケア語録⑤】

「介護記録が、そのまま事例検討につながるような記録をとりましょう。周囲からの評価は、対応した職員が内省として「気づく」ように言葉かけしましょう。」認知症の方によく見受けられる言動から考える事例検討について「ひもときネット」の [HPhttp://www.dcnet.gr.jp/retrieve/learn/learn.html](http://www.dcnet.gr.jp/retrieve/learn/learn.html) が参考になりますよ。